

本単元を展開するに当たっては、ペープサート劇の演出の工夫やくり返し見せることでことばや動作を引き出し、のりもの遊びのイメージを強く持たせたい。のりもの遊びでは、動物の帽子や駅を用意したり、トンネル作りを取り組むことにより、子どもがより目的的に活動できるようにしたい。「しんかんせん」で楽しく遊ぶことを大事にし、一人一人の課題を明確にし、それに応じたかわり方をしたいと考えている。特に教師はあたかも遊び上手な友だちのようにふるまい、その中で、常に子どもを心をくみ取りながら、遊びを内面から無理なく誘発させたい。そうすることで自分たちの力で思う存分遊んだという充足感を味わうことができるであろう。

(三) 単元の目標

① 子ども同士がかわりあいながら、楽しくのりもの遊びができるようになる。

ア、乗りたいという意思表示をことばや動作で自分からしたり、「しんかんせん」の乗り降りができるようにする。

イ、簡単なルールや運転手、車掌、客などの役割がわかり、交代して遊ぶことができるようにする。  
 ペープサートのお話に楽しく参加できるようにする。

ア、ペープサートを見て動物の鳴きまねや動作模倣をしたり、その場

表1 単元の展開

小単元 時数	ペープサート劇	のりもの遊び	トンネルづくり	配慮事項・指導の分担
18	◎自作のペープサート劇「どうぶつ村のしんかんせんを見る」。 ○歌に合わせて手遊びをする。 ・動物の動作 ・動物の鳴きまねをする。 ○登場する動物を自分たちで決めて、教師にペープサート劇をしてもらう。	◎しんかんせんに乗って遊ぶ。 ○教師にしんかんせんを引いてもらって、友だちと交代で乗って遊ぶ。 ◎役割を交代しながら遊ぶ。 ○しんかんせんに乗る、押す、引く、駅でまつといった役割を交代しながら遊ぶ。 ○トンネルを設定して遊ぶ。	◎トンネルをつくる。 ○障子紙をはって2つのダンボール箱をつなぐ。 ○ダンボール箱に色紙をはる。	◎単元の初期はペープサート劇をくり返し行い、子どもの関心を高めながら、のりもの遊びのイメージを強くもたせたい。 ◎単元が進むにつれてのりもの遊びを活動に追加し、ペープサート劇と平行して進める。 ◎子どもたちと遊びながら少しずつ、具体的な約束を決めてルールにまで高め、ルールを守って遊ぶことの大切さに気づかせていく。 ◎T <sub>1</sub> は学習の展開をリードする。 T <sub>2</sub> は機器の操作と児童の援助にあたる。 T <sub>3</sub> 、T <sub>4</sub> はペープサートの演技や道具の操作、児童の援助にあたる。 ◎子どもの興味・関心を引くようにトンネルや、切符販売機を遊びに加えたり、場面設定を工夫したりして、遊びを発展させる。 ◎教師は遊び上手な友達となって遊びをリードするが遊びが活発化するにつれて援助を弱め、子どもが中心となって遊べるよう働きかけていく。
12	◎登場させたい動物の動作や鳴きまねをしたり、鳴き声を聞いてその動物のペープサートを選んだりする。	◎ルールにそって遊ぶ。 ○しんかんせんに1回乗ったら交代する、切符を買って乗るといったルールにそって遊ぶ。 ○運転手(サル)と車掌(イヌ)になる子どもを決めて遊ぶ。 ※運転手は先頭に乗る笛をふいて出発、到着の合図をする。	◎停車駅をつくる。	

余暇の遊びへと発展

に応じた簡単なことばが言えるようにする。  
 イ、動物の名前と動物の鳴き声と動物をペープサートでマッチングすることができるようになる。

物をペープサートでマッチングすることができるようになる。

(四) 指導計画  
 ① 単元の展開(表1参照)  
 ② 主な指導内容(表2参照)